					1			
科目名	鍵盤楽器演奏	I (伴奏法を ———	含む) 	l	担当教員	村田 睦美		
単位	1単位		遠区分	講義		ナンバリング	ED1MIM101	
期待される学修成果 								
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	グループワーク						
実務経験								
実務経験を生かした 授業内容								
到達目標及びテーマ		ては、歌唱の [・]					表では暗譜で演奏できる。また歌唱に合わせて適切に演奏する	
授業の概要	進めていく。b	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレヴェルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を 進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能 をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。						
授業計画								
第1回	今までの学習	を確認、各自	の課題曲の設定					
第2回	基本的な演奏	技術のエクサ	サイズI					
第3回	基本的な演奏	技術のエクサ	⁺サイズⅡ					
第4回	基本的な演奏	技術のエクサ	⁻ サイズⅢ					
第5回	基本的な演奏	技術の確認の)ための発表					
第6回	伴奏法I楽	曲分析						
第7回	伴奏法Ⅱ 演	奏表現						
第8回	伴奏法Ⅲ 伴	奏合わせ 						
第9回	伴奏曲の発表	・グループ訂	論					
第10回	各自の練習曲	の演奏 読	語のチェック					
第11回	各自の練習曲	の演奏Ⅱ 楽	(曲分析					
第12回	各自の練習曲	の演奏Ⅲ 演	i奏表現					
第13回	各自の練習曲	の演奏Ⅳ 暗	譜					
第14回	各自の練習曲	の演奏 V 仕	-上げ					
第15回	各自の練習曲	の成果発表・	グループ討論					
事前学修	0.5時間	各回の授業	時に次回までの課題	を指示	するので、それに沿って	練習しておくこと。		
事後学修	0.5時間	各回の授業 めること。	で教授された内容を	楽譜に	整理し、振り返りシート	に記述する。課題箇所	を練習し、その改善、克服に努	
フィードバックの方法	練習してきた記	 果題曲につい 	て、レッスンを通し	,て現在	の学習課題がわかるよう	にフィードバックする	0	
成	績評価方法			割合	(%)		評価基準等	
	定期試験			09	%		実施しない	
上記以外0	つ試験・平常点評値	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽表現を修得できたかを評価する。						
			1					

上記以外の試験・平常点評価

各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	B C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていず れかを使用
ツェルニー40番練習曲	B C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていず れかを使用
ツェルニー50番練習曲	3 C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていず れかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料 全	:訳ハノンピアノ教本		'	'

科目名	鍵盤楽器演奏	(伴奏法を	含む)		担当教員	小見山 純一			
単位	1単位	講		講義		ナンバリング	ED1MIM101		
期待される学修成果	基礎教養 教科	科教育							
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	グループワーク							
実務経験									
実務経験を生かした 授業内容									
到達目標及びテーマ	伴奏法について	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技術と表現を身につける。最終回の実技発表では暗譜で演奏できる。また 半奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する 支術を習得できる。							
授業の概要	進めていく。と	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレヴェルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を 進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能 をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。							
———————— 第1回	今までの学習	を確認、各自	目の課題曲の設定						
第2回	基本的な演奏	技術のエクサ	ナサイズ I						
第3回	基本的な演奏	技術のエクサ	+サイズⅡ						
第4回	基本的な演奏	技術のエクサ	^け サイズⅢ						
第5回	基本的な演奏	基本的な演奏技術の確認のための発表							
第6回	伴奏法 楽	曲分析							
第7回	伴奏法Ⅱ 演	奏表現							
第8回	伴奏法Ⅲ 伴	奏合わせ							
第9回	伴奏曲の発表	・グループ語	計論						
第10回	各自の練習曲	の演奏Ⅰ 読	も きいきェック						
第11回	各自の練習曲	の演奏Ⅱ 楽	美曲分析						
第12回	各自の練習曲	の演奏Ⅲ 湞	奏表現						
第13回	各自の練習曲	の演奏Ⅳ 暗	注言 普						
第14回	各自の練習曲	の演奏V 仕	上上げ						
第15回	各自の練習曲	の成果発表・	グループ討論						
	0.5時間	各回の授業	時に次回までの課題	を指示	 するので、それに沿っ ⁻	 て練習しておくこと。			
事後学修	0.5時間	各回の授業					fを練習し、その改善、克服に努 で		
フィードパックの方法	練習してきた認	めること。 果題曲につい	て、レッスンを通し	て現在	の学習課題がわかるよう	うにフィードバックする	00		
成績	評価方法 ————————			割合	(%)		評価基準等		
定	期試験			09	%		実施しない		
上記以外の	試験・平常点評値			70	%		おいて、基本的な演奏技能や音∮ 身できたかを評価する。		

上記以外の試験・平常点評価

各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	B C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていず れかを使用
ツェルニー40番練習曲	B C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていず れかを使用
ツェルニー50番練習曲	3 C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていず れかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料 全	:訳ハノンピアノ教本		'	'

科目名	鍵盤楽器演奏	I(伴奏法を	含む)	担当教員	市野 啓子			
単位	1単位	講			ナンバリング	ED1MIM101		
期待される学修成果	基礎教養 教科	斗教育						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワー:	Ź						
実務経験								
実務経験を生かした 授業内容								
到達目標及びテーマ		ては、歌唱の				表では暗譜で演奏できる。また 歌唱に合わせて適切に演奏する		
授業の概要	進めていく。し	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレヴェルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を 進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能 をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。						
第1回	今までの学習	を確認、各自	の課題曲の設定					
第2回	基本的な演奏	技術のエクサ	·サイズ I					
第3回	基本的な演奏	技術のエクサ	⁺ サイズⅡ					
第4回	基本的な演奏	技術のエクサ	⁺ サイズⅢ					
第5回	基本的な演奏	技術の確認の)ための発表					
第6回	伴奏法 楽	曲分析						
第7回	伴奏法Ⅱ 演	奏表現						
第8回	伴奏法Ⅲ 伴	奏合わせ						
第9回	伴奏曲の発表	・グループ討	計論					
第10回	各自の練習曲	の演奏 読	た 譜のチェック					
第11回	各自の練習曲	の演奏Ⅱ 楽	美曲分析					
第12回	各自の練習曲	の演奏Ⅲ 演	奏表現					
第13回	各自の練習曲	の演奏IV 暗	語					
第14回	各自の練習曲	の演奏V 仕	上上げ					
第15回	各自の練習曲	の成果発表・	グループ討論					
事前学修	0.5時間	各回の授業	時に次回までの課題を指示	:するので、それに沿って;	練習しておくこと。			
事後学修	0.5時間	各回の授業めること。	で教授された内容を楽譜に	整理し、振り返りシート	に記述する。課題箇所			
フィードバックの方法	練習してきた		て、レッスンを通して現在	の学習課題がわかるよう	こフィードバックする	00		
 ьt;	責評価方法		割合	(%)		評価基準等		
				%		実施しない		
	対象 ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン ファイン							
			-					

上記以外の試験・平常点評価

各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	B C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていず れかを使用
ツェルニー40番練習曲	B C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていず れかを使用
ツェルニー50番練習曲	3 C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていず れかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料 全	:訳ハノンピアノ教本		'	'

科目名	鍵盤楽器演奏	(伴奏法を	含む) 	担当教員	宮川 左知子			
単位	1単位	講	遠区分		ナンバリング	ED1MIM101		
期待される学修成果	基礎教養 教科	基礎教養 教科教育						
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	7						
実務経験 								
実務経験を生かした 授業内容								
到達目標及びテーマ	伴奏法について	ピアノを演奏するために必要な基礎力、及び基本的な演奏技術と表現を身につける。最終回の実技発表では暗譜で演奏できる。また 伴奏法については、歌唱の伴奏を通して音を意識して聴くこと、自分の演奏を客観的に捉えること、歌唱に合わせて適切に演奏する 技術を習得できる。						
受業の概要	進めていく。b	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレヴェルや進度に応じて課題曲を設定し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を 進めていく。ピアノ演奏における身体の使い方や姿勢、スケール、アルペジオ、重音等、今後のピアノ作品の演奏に必要な演奏技能 をエクササイズや練習曲を通して学んでいく。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。						
受業計画								
第1回	今までの学習	を確認、各自	の課題曲の設定					
第2回	基本的な演奏	技術のエクサ	サイズI					
第3回	基本的な演奏	技術のエクサ	·サイズII					
第4回	基本的な演奏	技術のエクサ	·サイズIII					
第5回	基本的な演奏	基本的な演奏技術の確認のための発表						
第6回	伴奏法 楽	曲分析						
第7回	伴奏法Ⅱ 演	奏表現						
第8回	伴奏法Ⅲ 伴	奏合わせ						
第9回	伴奏曲の発表	・グループ討	t論					
第10回	各自の練習曲	の演奏 誘	譜のチェック					
第11回	各自の練習曲	の演奏Ⅱ 桨	(曲分析					
第12回	各自の練習曲	の演奏Ⅲ 演	奏表現					
第13回	各自の練習曲	の演奏Ⅳ 暗	語					
第14回	各自の練習曲	の演奏V 仕	上げ					
第15回	各自の練習曲	の成果発表・	グループ討論					
	0.5時間	各回の授業	時に次回までの課題	を指示するので、それに※				
事後学修	0.5時間					箇所を練習し、その改善、克服に努		
フィードバックの方法	練習してきた記		て、レッスンを通し	て現在の学習課題がわかる	らようにフィードバックす	- నం.		
	責評価方法			割合 (%)		評価基準等		
立	官期試験			0%	実施しない			
上記以外の	試験・平常点評値	Б		70%		こおいて、基本的な演奏技能や音绪 8得できたかを評価する。		
上記以外の試験・平常点評価				30%	各回の授業に対	して行ってくる予習の内容や取り絹 みを評価する		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
ツェルニー30番練習曲	B C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103060-6	各自のレベルに合わせていず れかを使用
ツェルニー40番練習曲	B C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103070-5	各自のレベルに合わせていず れかを使用
ツェルニー50番練習曲	3 C.ツェルニー	全音楽譜出版社	978-4-11-103080-4	各自のレベルに合わせていず れかを使用
中学生の音楽 1	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-850-3	なし
中学生の音楽2・3上	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-851-0	なし
中学生の音楽2・3下	教育芸術社編	教育芸術社	978-4-87788-852-7	なし
参考資料 全	:訳ハノンピアノ教本		'	'

科目名	鍵盤楽器演奏	II		担当教員	村田 睦美				
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM402			
期待される学修成果	教科教育 自己	教科教育 自己形成							
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク								
実務経験									
実務経験を生かした 授業内容									
到達目標及びテーマ	景、演奏様式に	鍵盤楽器演奏 I で学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。							
授業の概要	の形式で授業を	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレヴェルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。							
授業計画									
第1回	今までの学習	を確認、各自の課題曲	を設定						
第2回	基本的な演奏	技術のエクササイズI							
第3回	基本的な演奏	技術のエクササイズⅡ							
第4回	基本的な演奏	技術の確認のための発	表						
第5回	チェンバロ講	座・楽器体験(日程は	移動する可能性を	59)					
第6回	J.S.バッハのイ	作品の演奏 I 楽曲分析	Ť						
第7回	J.S.バッハのイ	作品の演奏Ⅱ 演奏表現	₹						
第8回	J.S.バッハの作	作品の演奏Ⅲ 暗譜							
第9回	J.S.バッハの作	作品の演奏IV 仕上げ							
第10回	J.S.バッハのイ	作品の実技発表・グルー	-プ討論						
第11回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏	I 楽曲分析						
第12回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏	Ⅱ 演奏表現						
第13回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅲ 暗譜								
第14回	各自で選曲し	各自で選曲したバロック作品の演奏IV 仕上げ							
第15回	各自で選曲し	たバロック作品の成果	発表・グループ詞	寸論					
事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回ま んでいる作品について			沿って練習しておくこと。言	また作曲家や時代様式等、取り組			
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授され めること。	れた内容を楽譜に	整理し、振り返り	シートに記述する。課題箇所	所を練習し、その改善、克服に努			
	練習してきた記	⊥ 課題曲について、レッス	マンを通して現在	の学習課題がわか	 るようにフィードバックする	, , ,			

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽 表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組 みを評価する。

補足事項					
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
バッハ:インヴェンシ シンフォニア	ョンと	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料		ノンピアノ教本 に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏 I	II		担当教員	小見山 純一					
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM402				
期待される学修成果	教科教育 自己	教科教育 自己形成								
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	グループワーク								
実務経験										
実務経験を生かした 授業内容										
到達目標及びテーマ	景、演奏様式に	鍵盤楽器演奏 I で学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。								
授業の概要	の形式で授業を	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレヴェルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスン の形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を 深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。								
授業計画										
第1回	今までの学習	を確認、各自の課題曲	を設定							
第2回	基本的な演奏	技術のエクササイズI								
第3回	基本的な演奏	技術のエクササイズⅡ								
第4回	基本的な演奏	技術の確認のための発	表							
第5回	チェンバロ講	座・楽器体験(日程は程	移動する可能性は	59)						
第6回	J.S.バッハの作	作品の演奏 I 楽曲分析	Í							
第7回	J.S.バッハの作	作品の演奏Ⅱ 演奏表現	1							
第8回	J.S.バッハの作	作品の演奏Ⅲ 暗譜								
第9回	J.S.バッハの作	作品の演奏Ⅳ 仕上げ								
第10回	J.S.バッハの作	作品の実技発表・グルー	-プ討論							
第11回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏	I 楽曲分析							
第12回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏	Ⅱ 演奏表現							
第13回	各自で選曲し	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅲ 暗譜								
第14回	各自で選曲し	各自で選曲したバロック作品の演奏IV 仕上げ								
第15回	各自で選曲し	たバロック作品の成果	発表・グループ言	寸論						
事前学修	0.5時間	0.5時間 各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、 んでいる作品について調べておくこと。								
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授され めること。	これ 内容を楽譜に	整理し、振り返り	シートに記述する。課題箇所	を練習し、その改善、克服に努				
フィードバックの方法	練習してきた記	黒題曲について、レッス	ペンを通して現在	の学習課題がわか	るようにフィードバックする	0				

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽 表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組 みを評価する。

補足事項					
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
バッハ:インヴェンシ シンフォニア	ョンと	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料		ノンピアノ教本 に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏 I	1		担当教員	鷲見 千鶴子				
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM402			
期待される学修成果	教科教育 自己	教科教育 自己形成							
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	グループワーク							
実務経験									
実務経験を生かした 授業内容									
到達目標及びテーマ	景、演奏様式は	鍵盤楽器演奏 I で学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。							
授業の概要	の形式で授業を	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレヴェルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスン の形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を 深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。							
授業計画									
第1回	今までの学習	を確認、各自の課題曲を	を設定						
第2回	基本的な演奏	技術のエクササイズI							
第3回	基本的な演奏	技術のエクササイズⅡ							
第4回	基本的な演奏	技術の確認のための発え	表						
第5回	チェンバロ講	座・楽器体験(日程は私	多動する可能性は	あり)					
第6回	J.S.バッハの作	作品の演奏 I 楽曲分析	-						
第7回	J.S.バッハの作	作品の演奏Ⅱ 演奏表現	Į.						
第8回	J.S.バッハの作	作品の演奏Ⅲ 暗譜							
第9回	J.S.バッハの作	作品の演奏Ⅳ 仕上げ							
第10回	J.S.バッハの作	作品の実技発表・グルー	プ討論						
第11回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏	I 楽曲分析						
第12回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏 I	Ⅱ 演奏表現						
第13回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏I	Ⅱ 暗譜						
第14回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏	V 仕上げ						
第15回	各自で選曲し	たバロック作品の成果教	発表・グループ言	寸論					
事前学修	0.5時間	0.5時間 各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取んでいる作品について調べておくこと。							
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授され	に 内容を楽譜に	整理し、振り返り:	シートに記述する。課題箇所	を練習し、その改善、克服に努			
フィードバックの方法	 練習してき <i>た</i>		ンを通して現在	の学習課題がわかる	るようにフィードバックする。	0			

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽 表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組 みを評価する。

補足事項					
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
バッハ:インヴェンシ シンフォニア	ョンと	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料		ノンピアノ教本 に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏	II		担当教員	宮川 左知子				
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MIM402			
期待される学修成果	教科教育 自己	教科教育 自己形成							
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	グループワーク							
実務経験									
実務経験を生かした 授業内容									
到達目標及びテーマ	景、演奏様式に	鍵盤楽器演奏 I で学んだ基本的な演奏技能と表現をさらに高めることができる。バロック時代の作曲家の作品について、社会的な背景、演奏様式について理解し、その演奏に必要な技能と表現を身につけることができる。最終回に実施する実技の成果発表において暗譜で演奏することができる。							
授業の概要	の形式で授業を	受講生それぞれのピアノ演奏技能のレヴェルや進度に応じて、自分に合った課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。また作品に関する文献を読み、その歴史的、社会的な背景を踏まえながら解釈し、作品に対する理解を深める。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。							
授業計画									
第1回	今までの学習	を確認、各自の課題曲を	を設定						
第2回	基本的な演奏	技術のエクササイズI							
第3回	基本的な演奏	技術のエクササイズⅡ							
第4回	基本的な演奏	技術の確認のための発	表						
第5回	チェンバロ講	座・楽器体験(日程は科	移動する可能性を	あり)					
第6回	J.S.バッハの作	作品の演奏I 楽曲分析	Ť						
第7回	J.S.バッハのイ	作品の演奏Ⅱ 演奏表現	₹						
第8回	J.S.バッハのイ	作品の演奏Ⅲ 暗譜							
第9回	J.S.バッハの作	作品の演奏IV 仕上げ							
第10回	J.S.バッハのイ	作品の実技発表・グルー	-プ討論						
第11回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏	I 楽曲分析						
第12回	各自で選曲し	たバロック作品の演奏	Ⅱ 演奏表現						
第13回	各自で選曲したバロック作品の演奏Ⅲ 暗譜								
第14回	各自で選曲し	各自で選曲したバロック作品の演奏IV 仕上げ							
第15回	各自で選曲し	たバロック作品の成果	発表・グループ語	寸論					
事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回ま んでいる作品について			こ沿って練習しておくこと。る	また作曲家や時代様式等、取り組			
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授され めること。	1た内容を楽譜に	・ ・整理し、振り返り	リシートに記述する。課題箇所	所を練習し、その改善、克服に努			
	練習してきた記	」 課題曲について、レッス	マンを通して現在	この学習課題がわか	 \るようにフィードバックする	, 5 ₀			

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽 表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組 みを評価する。

補足事項					
教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
バッハ:インヴェンシ シンフォニア	ョンと	J.S.バッハ/市田儀一郎校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-105080-2	他の版の使用も可
参考資料		ノンピアノ教本 に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ	II		担当教員	村田 睦美	
単位	1単位	講義区分	講義	·	ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度	支	·		·	
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	ל				
実務経験						
実務経験を生かした 授業内容						
到達目標及びテーマ	ことができる。		技発表において	暗譜で演奏する		冬に必要な技能と表現を習得する ついては、共演者の音を意識して
授業の概要	く。取り組む作	作品に関する文献を読み、	、社会的な背景	、演奏様式など、		レッスンの形式で授業を進めてい ○音楽との違いを踏まえながら解 を行う。
授業計画						
第1回	今までの学習	成果を確認、各自の課題	曲を設定			
第2回	基本的な演奏	技術のエクササイズI				
第3回	基本的な演奏	技術のエクササイズⅡ				
第4回	基本的な演奏	技術の確認のための発表	ŧ			
第5回	古典派の作品	の演奏I 読譜のチェッ	ク			
第6回	古典派の作品	の演奏Ⅱ 楽曲分析				
第7回	古典派の作品	の演奏Ⅲ 演奏表現				
第8回	古典派の作品	の演奏Ⅳ 暗譜				
第9回	古典派の作品	の演奏V 仕上げ				
第10回	古典派の作品	の実技発表・グループ討	論			
第11回	連弾曲の演奏	I 連弾についての説明				
第12回	連弾曲の演奏	Ⅱ 楽曲分析				
第13回	連弾曲の演奏	Ⅲ 演奏表現				
第14回	連弾曲の演奏Ⅳ 仕上げ					
第15回	連弾の成果発	表・グループ討論				
事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回ま んでいる作品について			に沿って練習しておくこと。?	また作曲家や時代様式等、取り組
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授され めること。	た内容を楽譜に	整理し、振り返	りシートに記述する。課題箇所	所を練習し、その改善、克服に努
	練習してきた語	└────────────────────────────────────	ンを通して現在	の学習課題がわれ	 かるようにフィードバックする	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽 表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組 み、実技チェックを評価する。

浦	兄	車	陌
TH	$^{\prime}$	#	10

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第 版および初期楽譜に基 訂版		今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第版および初期楽譜に基 訂版		今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 版準拠	巻 原典	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 版準拠	巻 原典	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。				

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ	<u> </u>		担当教員	小見山(純一	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度	Ę				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	7				
実務経験						
実務経験を生かした 授業内容						
到達目標及びテーマ	ことができる。		技発表において	暗譜で演奏するこ		奏に必要な技能と表現を習得する ついては、共演者の音を意識して
授業の概要	く。取り組む作	F品に関する文献を読み、	、社会的な背景	、演奏様式など、		レッスンの形式で授業を進めてい た音楽との違いを踏まえながら解 を行う。
授業計画						
第1回	今までの学習	成果を確認、各自の課題	曲を設定			
第2回	基本的な演奏	技術のエクササイズI				
第3回	基本的な演奏	技術のエクササイズⅡ				
第4回	基本的な演奏	技術の確認のための発表	ŧ			
第5回	古典派の作品の	の演奏丨 読譜のチェッ	9			
第6回	古典派の作品の	の演奏Ⅱ 楽曲分析				
第7回	古典派の作品の	の演奏Ⅲ 演奏表現				
第8回	古典派の作品の	の演奏Ⅳ 暗譜				
第9回	古典派の作品の	の演奏V 仕上げ				
第10回	古典派の作品の	の実技発表・グループ討	i inin			
第11回	連弾曲の演奏	I 連弾についての説明				
第12回	連弾曲の演奏	Ⅱ 楽曲分析				
第13回	連弾曲の演奏	Ⅲ 演奏表現				
第14回	連弾曲の演奏	連弾曲の演奏Ⅳ 仕上げ				
第15回	連弾の成果発	表・グループ討論				
事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回ま んでいる作品について			こ沿って練習しておくこと。 ;	また作曲家や時代様式等、取り組
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授され めること。	た内容を楽譜に	整理し、振り返り	リシートに記述する。課題箇所	所を練習し、その改善、克服に努
フィードパックの方法	練習してきた誤	 関曲について、レッス	ンを通して現在	の学習課題がわか	 ^るようにフィードバックする	3.

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽 表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組 み、実技チェックを評価する。

浦	兄	車	陌
TH	$^{\prime}$	#	10

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第 版および初期楽譜に基 訂版		今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第版および初期楽譜に基 訂版		今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 版準拠	巻 原典	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 版準拠	巻 原典	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。				

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ	<u> </u>	担当教員	鷲見 千鶴子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度	Ę			
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	,			
実務経験					
実務経験を生かした 授業内容					
到達目標及びテーマ	ことができる。	第10回目に実施する実技			奏に必要な技能と表現を習得する ついては、共演者の音を意識して
授業の概要	く。取り組む作	■品に関する文献を読み、	社会的な背景、演奏様式など		レッスンの形式で授業を進めてい た音楽との違いを踏まえながら解 を行う。
授業計画					
第1回	今までの学習が	成果を確認、各自の課題は	曲を設定		
第2回	基本的な演奏	支術のエクササイズ			
第3回	基本的な演奏	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ			
第4回	基本的な演奏	支術の確認のための発表			
第5回	古典派の作品の	の演奏I 読譜のチェック	ל		
第6回	古典派の作品の	の演奏 II 楽曲分析			
第7回	古典派の作品の	の演奏Ⅲ 演奏表現			
第8回	古典派の作品の	の演奏Ⅳ 暗譜			
第9回	古典派の作品の	の演奏 V 仕上げ			
第10回	古典派の作品の	の実技発表・グループ討論	a		
第11回	連弾曲の演奏	l 連弾についての説明			
第12回	連弾曲の演奏	Ⅱ 楽曲分析			
第13回	連弾曲の演奏	Ⅲ 演奏表現			
第14回	連弾曲の演奏Ⅰ	連弾曲の演奏IV 仕上げ			
第15回	連弾の成果発	表・グループ討論			
事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回まで んでいる作品について調		に沿って練習しておくこと。:	また作曲家や時代様式等、取り組
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された めること。	:内容を楽譜に整理し、振り返	りシートに記述する。課題箇所	所を練習し、その改善、克服に努
	練習してきた誤	果題曲について、レッスン	を通して現在の学習課題がわ	かるようにフィードバックする	 ಕೃ

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽 表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組 み、実技チェックを評価する。

浦	兄	車	陌
TH	$^{\prime}$	#	10

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第 版および初期楽譜に基 訂版		今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第版および初期楽譜に基 訂版		今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 版準拠	巻 原典	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 版準拠	巻 原典	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。				

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅱ	<u> </u>		担当教員	市野 啓子	
単位	1単位	講義区分			ナンバリング	ED2MIM503
期待される学修成果	教科教育 態度	Ę	·			
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	7				
実務経験						
実務経験を生かした 授業内容						
到達目標及びテーマ	ことができる。		発表において	暗譜で演奏するこ		奏に必要な技能と表現を習得する ついては、共演者の音を意識して
授業の概要	く。取り組む作	₣品に関する文献を読み、	社会的な背景、	演奏様式など、		レッスンの形式で授業を進めてい た音楽との違いを踏まえながら解 を行う。
授業計画						
第1回	今までの学習が	成果を確認、各自の課題曲	曲を設定			
第2回	基本的な演奏	技術のエクササイズI				
第3回	基本的な演奏	技術のエクササイズⅡ				
第4回	基本的な演奏	技術の確認のための発表				
第5回	古典派の作品の	の演奏I 読譜のチェック	<i>ל</i>			
第6回	古典派の作品の	の演奏Ⅱ 楽曲分析				
第7回	古典派の作品の	の演奏Ⅲ 演奏表現				
第8回	古典派の作品の	の演奏IV 暗譜				
第9回	古典派の作品の	の演奏 V 仕上げ				
第10回	古典派の作品の	の実技発表・グループ討論	侖			
第11回	連弾曲の演奏	l 連弾についての説明				
第12回	連弾曲の演奏	Ⅱ 楽曲分析 ————————————————————————————————————				
第13回	連弾曲の演奏	Ⅲ 演奏表現				
第14回	連弾曲の演奏Ⅰ	V 仕上げ 				
第15回	連弾の成果発	表・グループ討論				
事前学修	0.5時間	各回の授業時に次回まで んでいる作品について調			沿って練習しておくこと。	また作曲家や時代様式等、取り組
事後学修	0.5時間	各回の授業で教授された めること。	内容を楽譜に	整理し、振り返り	シートに記述する。課題箇	所を練習し、その改善、克服に努
	練習してきた説	└────────────────────────────────────	・	の学習課題がわか	 るようにフィードバックす [。]	 3 .

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽 表現を修得できたかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	30%	各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組 み、実技チェックを評価する。

浦	兄	車	陌
TH	$^{\prime}$	#	10

教科書					
書名		著者	出版社	ISBN	備考
ソナチネ アルバム 第1巻 初 版および初期楽譜に基づく校 訂版		今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101216-9	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナチネ アルバム 第2巻 初 版および初期楽譜に基づく校 訂版		今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101217-6	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第1巻 版準拠	巻 原典	今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101226-8	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
ソナタ アルバム 第2巻 原典 版準拠		今井顕校訂	全音楽譜出版社	978-4-11-101227-5	作曲家ごとのソナタの楽譜や 他の版の使用も可
参考資料		ノンピアノ教本 に適宜紹介する。			

科目名	鍵盤楽器演奏I	V			担当教員	村田 睦美				
単位	1単位	講義	遠区分	講義		ナンバリン	f ED2MIM504			
期待される学修成果	教科教育 態	芰								
アクティブ・ラーニングの要素	グループワー:	<i>7</i>								
実務経験										
実務経験を生かした 授業内容										
到達目標及びテーマ	み、その作品の	の演奏に適切	な技能と表現を習得	骨するこ	とができる。第10回目	に実施する実技発	以降の様々な作曲家の作品に取り組 表において暗譜で演奏することがで 表現を習得することができる。			
授業の概要	く。作品に関すがら解釈し、5	する文献を読む 理解を深める。	み、社会的な背景、 ,第11回目以降は、	演奏様ピアノ	式など、これまでの鍵	盤楽器演奏の授業で ス、アンサンブル:	実技レッスンの形式で授業を進めて で学んできた音楽との違いを踏まえ コースの中から自分で一つのコース ,			
授業計画										
第1回	今までの学習	成果の確認、	各自の課題曲、コ	ースを設	定					
第2回	基本的な演奏	技術のエクサ	サイズI							
第3回	基本的な演奏	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ								
第4回	基本的な演奏	基本的な演奏技術の確認のための発表								
第5回	ロマン派以降	の作品の演奏	- 読譜のチェッ	ク						
第6回	ロマン派以降	の作品の演奏	※II 楽曲分析							
第7回	ロマン派以降	の作品の演奏	⊯ 演奏表現							
第8回	ロマン派以降	の作品の演奏	IV 暗譜							
第9回	ロマン派以降	の作品の演奏	V 仕上げ							
第10回	ロマン派以降	の作品の実技	発表・グループ討	論						
第11回	選択したコー	ス(ピアノ独	奏・伴奏・アンサ	ンブル)	の演奏I それぞれの)コースの基礎知識	ì			
第12回	選択したコー	ス(ピアノ独	奏・伴奏・アンサ	ンブル)	の演奏Ⅱ 楽曲分析					
第13回	選択したコー	ス(ピアノ独	奏・伴奏・アンサ	ンブル)	の演奏Ⅲ 演奏表現					
第14回	選択したコー	ス(ピアノ独	奏・伴奏・アンサ	ンブル)	の演奏IV 仕上げ					
第15回 ————————————————————————————————————	選択したコー	スの成果発表	・グループ討論							
事前学修	0.5時間	0.5時間 各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。								
事後学修	0.5時間	0.5時間 各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に めること。								
フィードバックの方法	練習してきた記	課題曲につい	て、レッスンを通し	て現在	の学習課題がわかるよ	うにフィードバック	クする。			
成	績評価方法			割合	(%)		評価基準等			
	定期試験			09	%		実施しない			
上記以外の試験・平常点評価 70% 実技の成果発表において、基本的な演奏 ・主視を修得できたかを評価する										

表現を修得できたかを評価する。

上記以外の	試験・平	常点評価	各回の授業に対して行ってくる予習の内容				
補足事項							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
授業時に適宜指定で	指定する なし なし なし なし					なし	
参考資料		ノンピアノ教本 に適宜紹介する。					

科目名	鍵盤楽器演奏Ⅳ	<u> </u>			担当教員	小見山 純一			
単位	1単位	講		講義		ナンバリング	ED2MIM504		
期待される学修成果	教科教育 態度								
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク	,							
実務経験									
実務経験を生かした 授業内容									
到達目標及びテーマ	み、その作品の	演奏に適切	な技能と表現を習得	するこ	とができる。第10回目に	実施する実技発表にお	様々な作曲家の作品に取り組 いいて暗譜で演奏することができ :習得することができる。		
授業の概要	く。作品に関すがら解釈し、理	る文献を読 解を深める	み、社会的な背景、 。第11回目以降は、	演奏様: ピアノ	式など、これまでの鍵盤	i楽器演奏の授業で学ん ス、アンサンブルコース	ッスンの形式で授業を進めてい できた音楽との違いを踏まえな の中から自分で一つのコースを		
授業計画									
第1回	今までの学習ほ	成果の確認.	各自の課題曲、コ-	- スを訳	· 定				
第1回 ——————————— 第2回	基本的な演奏技			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
第3回	基本的な演奏技	支術のエクサ	 ⁺サイズⅡ						
 第4回	基本的な演奏技	基本的な演奏技術の確認のための発表							
第5回	ロマン派以降の	の作品の演奏	長Ⅰ 読譜のチェック						
第6回	ロマン派以降の	の作品の演奏	▶Ⅱ 楽曲分析						
第7回	ロマン派以降の	の作品の演奏	↓Ⅲ 演奏表現						
第8回	ロマン派以降の	の作品の演奏	₹IV 暗譜						
第9回	ロマン派以降の	の作品の演奏	₹V 仕上げ						
第10回	ロマン派以降の	の作品の実技	5発表・グループ討言	侖					
第11回	選択したコース	ス(ピアノ独	は奏・伴奏・アンサン	ンブル)	の演奏 それぞれの:	コースの基礎知識			
第12回	選択したコース	ス(ピアノ独	は奏・伴奏・アンサン	ンブル)	の演奏Ⅱ 楽曲分析				
第13回	選択したコース	ス(ピアノ独	は奏・伴奏・アンサン	ンブル)	の演奏Ⅲ 演奏表現				
第14回	選択したコース	ス(ピアノ狛	奏・伴奏・アンサ	ンブル)	の演奏IV 仕上げ				
第15回	選択したコース	スの成果発表	・グループ討論						
事前学修	0.5時間		時に次回までの課題 品について調べてお			て練習しておくこと。ま	た作曲家や時代様式等、取り組		
事後学修	0.5時間	各回の授業めること。	で教授された内容を	楽譜に	整理し、振り返りシート	、に記述する。課題箇所	fを練習し、その改善、克服に努		
フィードバックの方法	練習してきた課	題曲につい	て、レッスンを通し	,て現在		にフィードバックする	0 0		
	-								
成績	真評価方法			割合	(%)		評価基準等		
定	E期試験			09	%		実施しない		

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	70%	実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽 表現を修得できたかを評価する。

上記以外の	試験・平	常点評価	各回の授業に対して行ってくる予習の内容				
補足事項							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
授業時に適宜指定で	指定する なし なし なし なし					なし	
参考資料		ノンピアノ教本 に適宜紹介する。					

科目名 ————————————————————————————————————	鍵盤楽器演奏IV				担当教員		宮川 左知子 	
単位	1単位	講義	区分	講義			ナンバリング	ED2MIM504
期待される学修成果	教科教育 態度							
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク							
実務経験								
実務経験を生かした 授業内容								
到達目標及びテーマ	み、その作品の	演奏に適切	な技能と表現を習得	するこ。	とができる。第10	回目に到	実施する実技発表にお	様々な作曲家の作品に取り組 ないて暗譜で演奏することができ ・習得することができる。
授業の概要	く。作品に関すがら解釈し、理	る文献を読む 解を深める。	み、社会的な背景、	演奏様	式など、これまで 独奏コース、伴奏	の鍵盤第コース、	終器演奏の授業で学ん アンサンブルコース	・ッスンの形式で授業を進めてい、できた音楽との違いを踏まえな 、の中から自分で一つのコースを
授業計画								
第1回	今までの学習反	以果の確認、	各自の課題曲、コー	ースを設	定			
第2回	基本的な演奏技	技術のエクサ	サイズI					
第3回	基本的な演奏技	支術のエクサ	サイズⅡ					
第4回	基本的な演奏技	技術の確認の	ための発表					
第5回	ロマン派以降の)作品の演奏	: 読譜のチェック	ク				
第6回	ロマン派以降の	の作品の演奏	⊯ 楽曲分析					
第7回	ロマン派以降の	の作品の演奏	Ⅲ 演奏表現					
第8回	ロマン派以降の	の作品の演奏	IV 暗譜					
第9回	ロマン派以降の)作品の演奏	V 仕上げ					
第10回	ロマン派以降の	の作品の実技	発表・グループ討詞	淪				
第11回	選択したコース	ス(ピアノ独	奏・伴奏・アンサン	ンブル)	の演奏I それる	ぞれのコー	ースの基礎知識	
第12回	選択したコース	ス(ピアノ独	奏・伴奏・アンサン	ンブル)	の演奏Ⅱ 楽曲分	分析		
第13回	選択したコース	ス(ピアノ独	奏・伴奏・アンサン	ンブル)	の演奏Ⅲ 演奏割	長現		
第14回	選択したコース	ス(ピアノ独	奏・伴奏・アンサン	ンブル)	の演奏IV 仕上り	ť		
第15回	選択したコース	スの成果発表	・グループ討論					
事前学修	0.5時間		時に次回までの課題 品について調べてお			沿って約	東習しておくこと。ま	た作曲家や時代様式等、取り組
事後学修	0.5時間	各回の授業 めること。	で教授された内容を	と楽譜に	整理し、振り返り	シートに	こ記述する。課題箇所	fを練習し、その改善、克服に努
フィードパックの方法	練習してきた課		て、レッスンを通し	/て現在の	の学習課題がわか	るように	こフィードバックする	0
	評価方法			割合((%)			評価基準等
7-人小只				, חים	·· -/			E 1 1994 1 13

上記以外の試験・平常点評価

4	In
-1	1/
	, _

実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽

表現を修得できたかを評価する。

上記以外の	試験・平	常点評価	各回の授業に対して行ってくる予習の内容				
補足事項							
教科書							
書名		著者		出版社		ISBN	備考
授業時に適宜指定で	指定する なし なし なし なし					なし	
参考資料		ノンピアノ教本 に適宜紹介する。					

科目名	鍵盤楽器演奏IV	'			担当教員		鷲見 千鶴子					
単位	1単位	講義	区分	講義			ナンバリング	ED2MIM504				
期待される学修成果	教科教育 態度											
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク											
実務経験												
実務経験を生かした 授業内容												
到達目標及びテーマ	鍵盤楽器演奏Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して習得してきた演奏技能と表現をさらに深めていく。ロマン派以降の様々な作曲家の作品に取り組み、その作品の演奏に適切な技能と表現を習得することができる。第10回目に実施する実技発表において暗譜で演奏することができる。第11回目以降は、独奏、伴奏、アンサンブルのいずれかの演奏において必要な演奏技術と表現を習得することができる。											
授業の概要	受講生のピアノ演奏技能のレヴェルや進度に応じて課題曲を選択し、個人及びグループによる実技レッスンの形式で授業を進めていく。作品に関する文献を読み、社会的な背景、演奏様式など、これまでの鍵盤楽器演奏の授業で学んできた音楽との違いを踏まえながら解釈し、理解を深める。第11回目以降は、ピアノ独奏コース、伴奏コース、アンサンブルコースの中から自分で一つのコースを選択する。取り組みの成果を発表し、演奏における解釈や表現についてグループで討論を行う。											
授業計画												
第1回	今までの学習成果の確認、各自の課題曲、コースを設定											
第2回	基本的な演奏技術のエクササイズ!											
第3回	基本的な演奏技術のエクササイズⅡ											
第4回	基本的な演奏技術の確認のための発表											
第5回	ロマン派以降の作品の演奏 I 読譜のチェック											
第6回	ロマン派以降の作品の演奏Ⅱ 楽曲分析											
第7回	ロマン派以降の	の作品の演奏	Ⅲ 演奏表現									
第8回	ロマン派以降の作品の演奏IV 暗譜											
第9回	ロマン派以降の作品の演奏V 仕上げ											
第10回	ロマン派以降の作品の実技発表・グループ討論											
第11回	選択したコース(ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル)の演奏I それぞれのコースの基礎知識											
第12回	選択したコース(ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル)の演奏 楽曲分析											
第13回	選択したコース(ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル)の演奏Ⅲ 演奏表現											
第14回	選択したコース(ピアノ独奏・伴奏・アンサンブル)の演奏IV 仕上げ											
第15回	選択したコースの成果発表・グループ討論											
事前学修	0.5時間 各回の授業時に次回までの課題を指示するので、それに沿って練習しておくこと。また作曲家や時代様式等、取り組んでいる作品について調べておくこと。											
事後学修	0.5時間 各回の授業で教授された内容を楽譜に整理し、振り返りシートに記述する。課題箇所を練習し、その改善、克服に努めること。											
フィードパックの方法	 練習してきた課題曲について、レッスンを通して現在の学習課題がわかるようにフィードバックする。											
	 責評価方法			割合	(%)			評価基準等				
			0%				<u> </u>					

上記以外の試験・平常点評価

実技の成果発表において、基本的な演奏技能や音楽

表現を修得できたかを評価する。

上記以外の試験・平常点評価			30%			各回の授業に対して行ってくる予習の内容や取り組 みを評価する。				
補足事項										
教科書										
書名		著者		出版社		ISBN	備考			
授業時に適宜指定する		なし		なし		なし	なし			
参考資料	全訳ハノンピアノ教本 授業時に適宜紹介する。									